あいち国際プラザ

2025.12　No.167

AIA AICHI INTERNATIONAL ASSOCIATION

公益財団法人　愛知県国際交流協会
ニュースレター

表紙の一枚　ワールド・コラボ・フェスタ 2025

■写真の内容については 4 ページの「ワールド・コラボ・フェスタ 2025」を開催しました！で紹介しています。

Contents

特　集　イスラームの食と文化「知っていますか？ハラール」 …… P.2 ～ 3

■ AIA だより　協会の主催・共催事業などを掲載しています …… P.4 ～ 6
「ワールド・コラボ・フェスタ 2025」を開催しました！
海外研修参加報告（インド）
留学生インターンシップ報告
「2025 年度多文化ソーシャルワーク研修会」を開催しました

■ 2025 年度「外国人県民による多文化共生日本語スピーチコンテスト」が開催されました！ …… P.6

■ Focus on ！ …… P.7
国際交流ステーション　新城市国際交流協会
世界の街かどレポート　ミラノ日本人学校

■ ようこそ！愛知の産業グローバル化を支える留学生 …… P.8

■ 編集後記・協会案内図 …… P.8

当協会では賛助会員を募集しています。詳細は 愛知県国際交流協会 賛助会員 で 検索
https://www2.aia.pref.aichi.jp/somu/j/send/boshu.html

イスラームの食と文化　「知っていますか？ハラール」

イスラームは 7 世紀にアラビア半島で生まれた宗教で、現在、世界人口の 4 分の 1 近くがムスリム（注 1）と言われています（注 2）。日本国内に住むムスリムも 40 万人を超えると言われており（注 3）、ムスリムの人たちと共に生活していくため、今回はイスラームの食と文化を特集します。

イスラームとは、「神に身をゆだねること」を意味し、ムスリムの人たちは、神の言葉を記したコーランの教えを大切にしています。ハラールとは「許されている」という意味のアラビア語。神に食べることを許された食べ物という意味でも使われます。

実際に日本で生活しているムスリムの人たちにとって、何がハラールで、何がそうでないのでしょうか？名古屋イスラミックセンターのクレシ・サラ好美さんにお話を伺いました。

（注 1）イスラーム信徒
（注 2）店田廣文「世界と日本のムスリム人口 2019/2020 年」多民族多世代社会研究所 2021 年
（注 3）店田廣文「日本のムスリム人口 2025 年」多民族多世代社会研究所 2025 年
参考文献：後藤絵美、鳥山純子（著）長沢栄治（監修）「イスラームってなに？ 1、2」かもがわ出版 2017 年

イスラームには豚肉をはじめとする食の禁忌があります。そのため、ムスリムはハラール認証を受けたもの以外食べられないと誤解されがちですが、そうではありません。まずハラールとは、「許されたもの」を意味するアラビア語で、善い・清いものを指します。神が創られたものは善いものですから、基本的にこの世界のほぼすべてのものは許されており、海産物や野菜は制限なく食べることができます。豚以外の鶏や牛は善い・清いものですが、屠畜の際に神の名を唱えて安楽死させることが合法とされるため、そうした「ハラール肉」しか口にしない者もいれば、これが入手し難い日本では屠畜法にこだわらない者や、一神教徒の多い欧米からの輸入肉であれば構わないとする者もいて、その実践は人によってさまざまです。

ですから外食の際にも、ハラールを提供しているとうたう店でなくとも、各人の基準に則ってメニューを選べば、たいていの店を利用することは可能です。その際にありがたいのは、「特定原材料」および「特定原材料に準じるもの」が記載されたメニューです。アレルギー対応のための表示ですが、ムスリムにとっても「豚肉」や「鶏肉」「牛肉」といった表示を参考に、避けたい成分を各人ごとに確認できるのでとても便利です。

愛知県は約 2 万 8 千人のムスリムが暮らす、国内でも比較的ムスリム人口の高い地域です（注 2）。それでも県内人口の 0.4% にも満たない圧倒的マイノリティであり、たったそれだけのために特別なハラール対応を飲食店に要求すべきとは思いません。多様な人々が暮らす社会において、特定のマイノリティの要望にだけ対応することは公平性の観点からも適当でないからです。ただし、食品の成分表示の慣習が広まっていけば、ムスリムに限らず、食に制限のあるさまざまなマイノリティが今よりずっと生きやすい社会になることは間違いありません。多様な人々の存在を知っていただくこと、それに合わせて情報が正しく十分に提供されることを期待します。

▲アレルゲン表示のあるメニューの例
（名古屋大学消費生活協同組合 北部食堂より）

アレルギーピクトグラムから考える多文化共生

「アレルギー原因食品（アレルゲン）ピクトグラム」をご存じでしょうか。食品のパッケージや飲食店のメニュー表示などで見かける、卵や乳、小麦、えびなどのイラストマークです。食べられるもの、避けるべきものを一目で伝えるこの表示は、食物アレルギーを持つ人が安心して食事を楽しむための大切な工夫です。

このピクトグラムは、もともと健康上の安全確保のために導入されたものですが、最近ではその役割が広がりつつあります。たとえば、宗教上の理由で特定の食品を口にできない人たちにとっても、大きな助けとなっているのです。ムスリムの方々は豚肉やアルコールを避け、ヒンドゥー教徒の方は牛肉を食べません。また、動物性食品を控えるベジタリアンやヴィーガンなど、環境や倫理観に基づいて食を選択する人も増えています。そうした多様な背景を持つ人々にとって、食材や調味料が視覚的に示されるピクトグラムは、安心して食事を楽しむための手がかりとなっています。

ピクトグラムに限らず、食品成分や原材料に関する情報提供は、健康に気を遣う人だけでなく、文化的な食の制約を持つ人々にとっても有益な、“食のバリアフリー化ツール” と言えるでしょう。

▲アレルギー原因食品（アレルゲン）ピクトグラムの例

ハラール認証ってなに？

ムスリムの食の禁忌は一律ではなく、各人が正しいと考える基準で禁忌を避ける努力をしています。そうした中で、最近よく目にするようになったものに「ハラール認証マーク」があります。このマークは、イスラームの教えに従って作られた食品であることを示しています。マークは国や認証団体によって異なり、それぞれの基準に到達すると認証マークを付けることができます。

ハラール認証は、ムスリムの人たちが安心して食べられる食品であることを証明するために、第三者である認証団体が食品の原材料、製造方法、加工や輸送の過程などを細かく確認したうえで与えられます。最近では、日本国内の企業や飲食店でも、国内での需要はもちろん、海外での販路拡大のためにハラール認証を取得する動きが広がっています。

しかしながら、ムスリムにとって認証マークがなくても食べられるものはたくさんあります。日本で暮らすムスリムにとっては、ハラール認証に限らず食品成分や原材料の情報提供を広めることが望まれます。

▲ハラール認証マークの例

世界の人々が同じ食卓を囲めるように、食品成分表示やピクトグラム、ハラール認証マークを上手に活用しながら、文化の違いを認め合い、楽しく心豊かに過ごせる社会にしていきたいですね。

多様な文化に配慮しながら食を提供するお店は、どのような工夫をされているのでしょうか。多国籍料理を提供するレストラン、JICA 中部なごや地球ひろば「カフェ・クロスロード」の久保田さんにお話を伺いました。

当店カフェ・クロスロードでは、さまざまな国のお料理を提供させていただいております。JICA 関係者や、帰国した JICA 海外協力隊が教えてくれた世界各国のメニューのレシピで、普段なかなか食べられない本場の味を再現しています。エスニック料理や世界各国の料理を気軽に、食べやすく提供し、食を通じてその国や背景に興味を持っていただければと、日々創意工夫を重ねています。

その中で、宗教や文化的背景を持つ方々向けのお料理も提供しています。当店での対応といたしましては、HALAL 対応のお料理には、お肉や調味料を HALAL 認証を受けたものとそうでないもので分けて使用し、インドネシアやトルコなどの調味料を使用しています。厨房の構造や提供している料理の種類上、完全に対応できるわけではありませんが、可能な限り鍋や調理器具などを使い分けて使用しています。最終的なご判断はお客様ご自身にお任せしています。

当店のお客様には、研修員の方や近隣の学校･企業等にお勤めの方などが多く、ご自身の国の食事や現地の食材を使ったお料理を召し上がれるということで、喜んでいただいております。また、一般のお客様にも各国のお料理をお召しあがりいただき、「美味しい」とご好評をいただいております。さらに、「なごや地球ひろば」の展示やイベントと連動したメニューも提供しておりますので、興味を持たれた方はぜひなごや地球ひろば、カフェ・クロスロードにご訪問ください！

▲カフェ・クロスロード

▲使用している調味料の一例

世界の料理レシピのご紹介《ガパオライス》

材料（2 人前）

鶏挽き肉　180 g
〇にんにくみじん切り　1 かけ
〇ごま油　小さじ 1
〇唐辛子輪切り　1 本
パプリカスライス　1/4 個
ピーマンスライス　1/2 個
玉ねぎスライス　1/4 個
バジル　5 枚

ホーリーバジルペースト　30 g（手に入れば）
（ホーリーバジルペーストは下記調味料でも代用可
（お好みで唐辛子（一味唐辛子）を足しても OK）
◎オイスターソース　大さじ 1
◎ナンプラー　大さじ 1 と小さじ 1
◎砂糖　小さじ 1
◎水　大さじ 1）
卵　2 個
ごはん

① フライパンに〇の材料を加え、火にかけます。にんにくの香りと唐辛子の辛味を油に移していきます。
② 鶏挽き肉を炒めて火が通ってきたら玉ねぎを入れて炒めます。
③ 玉ねぎがしんなりしてきたらパプリカ、ピーマンを入れます。
④ ホーリーバジルペースト又は◎の調味料を混ぜ合わせてさらに炒めます。
⑤ ナンプラー小さじ 1 を仕上げに入れます。
⑥ 目玉焼きを焼きます。
⑦ お皿に盛りつけてバジルを飾ります。

レシピ提供：
JICA 中部なごや地球ひろば「カフェ・クロスロード」

「ワールド・コラボ・フェスタ 2025」を開催しました！

10 月 25 日（土）・26 日（日）の 2 日間、オアシス 21 で「ワールド・コラボ・フェスタ 2025」を開催しました。あいにくの雨模様となりましたが、前回を上回る約 62,000 人の方にお越しいただきました。

今年もブース出展は 22 団体、ステージ出演は 58 団体と、多くの団体にご参加いただき、多彩なプログラムが展開されました。訪れた方々が世界の多様な文化や幅広い取り組みや活動に触れ、つながりを感じる 2 日間となりました。

オープニングでは、南山大学応援団チアリーダー部「KOALAS」の皆さんが登場し、明るく元気なパフォーマンスでスタートを華やかに盛り上げてくれました。

▲抽選会の様子

また、今年も土曜日には「おいしい抽選会」、日曜日には「大抽選会」を開催しました。雨の中にもかかわらず多くの方にご参加いただき、当選発表のたびに歓声や笑顔が広がりました。ご家族や友人同士で楽しむ姿も多く見られ、会場全体がにぎやかで和やかな雰囲気に包まれました。

◆ AIA の出し物

●ブース「国旗展示と折り紙ワークで、アジアの世界に触れてみよう」

ここ愛知では、2026 年に国際的なスポーツ大会の開催が予定されています。その機会にあわせて、アジア 26 の国と地域への関心を高め、楽しみながら学べるよう、国旗紹介展示と折り紙ワークショップを実施しました。展示では、国旗の成り立ちやデザインの意味、国技や国民的スポーツ、応援の言葉などを紹介し、国旗クイズにも挑戦していただきました。また、来場者には「パスポート風冊子」を配布し、アジアの国々を巡るように学べる内容としました。子どもたちは国旗シール集めに夢中になり、大人の参加者の中では、特に男性の方がご自身の知識を確かめながらクイズに真剣に取り組む姿が印象的でした。

▲国旗クイズに挑戦する親子の様子

ワークショップでは、4 つの国をイメージしたモチーフの折り紙を体験していただき、親子連れを中心に多くの方が参加し、交流が生まれるにぎやかなブースとなりました。今回の取組を通して、身近で多様なアジアの国や地域への理解と親しみが深まれば嬉しく思います。

▲折り紙でパンダを折る子どもたちの様子

●ステージ企画「ブラジル人元力士から見た日本」

▲トークショーの様子（クリス氏（左）と田代氏（右））

ブラジル出身の元力士クリスチアーノ・ルイス・デソウザ氏をお迎えし、「多文化共生」をテーマとしたトークショーを開催しました。

元力士で、相撲に特化した芸能事務所の代表である田代良徳氏が進行を務めました。最初は緊張気味なクリス氏でしたが、田代氏の軽快なトークで緊張がほぐれ、日本での暮らしや相撲界での体験、引退後の活動などについてユーモアを交えて語りました。二人の息の合った掛け合いにより、会場は終始和やかな雰囲気に包まれ、ご来場の皆さまにとっても温かく心に残る時間となりました。

会場にお越しいただいたみなさま、ご参加いただいた出展・出演団体のみなさま、そしてこのイベントを支えてくださったすべての方々、ありがとうございました。

海外研修参加報告（インド）

総務企画課　棚田

令和７年９月３日から９月13日まで、（公財）全国市町村研修財団が主催する研修「自治体の海外戦略～活力あるアジアとの地域間交流促進～（インド）」に参加しました。インドは人口で世界第１位となり急速な経済成長を遂げる中で、多様性豊かな歴史と文化を背景に、その規模の大きさから国際社会における存在感が高まっています。

研修では、まず国内でインドの歴史・経済などの基礎知識について学んだ後、デリーとムンバイの公的施設や大学、送り出し機関等を訪問しお話を伺いました。その中で特に印象的だった現地調査について報告します。

▲現地調査の結果

▲学生への調査の様子

研修の中で訪れた大学と送り出し機関である２つの施設において、日本がインド人材を受け入れる際に、自治体が生活面でのサポートとして求められることを明らかにする目的で現地調査を実施しました。調査は「訪日した際に不安に感じること」を「日本語」以外の「食事」「孤立」「マナーや暗黙のルール」「治安」の４択の中から選んでもらいました。宗教の関係やベジタリアンが多い文化から「食事」が最も多いと仮説をたてましたが、実際は「マナーや暗黙のルール」が最も多く、次いで「孤立」が多いという結果でした。理由を聞いてみたところ、知らないこと・分からないことに対しての漠然とした不安からという回答が大半でした。また調査を実施した大学や送り出し機関の学生が、宗教的に食事制約の少ないインド北東部地域の人が多かったことが「食事」が少なかった理由と考えられます。今回の調査では、出身地域によって様々な差があり、インドが多文化国家であることを実感しました。また、これらの不安を解消するため、当協会がどのような事業を実施していけばよいかヒントを得ることができました。

大学や送り出し機関での交流では、学生の表情が日本への期待で生き生きとしていたことが印象的で、「現在日本は経済面で比べると他の国より魅力的ではないかもしれないが、日本の独自の文化や習慣を尊敬している」と話す学生が何人かいました。彼らが日本へ来た時、がっかりさせない、不安にさせない地域でありたいと強く思いました。

今回、研修で学んだことを活かし、日本を訪れる外国の人々が住みやすいと感じる地域とするため、日本人と外国人のお互いの「未知」を減らし、結びつける役割を担っていきたいと思います。

留学生インターンシップ報告

李渓桐（リケイトウ）（中国）

私は９月に５日間、公益財団法人愛知県国際交流協会でインターンシップ実習を行いました。留学生として日本で生活する中で、国際交流の現場を直接体験できたことは、学業だけでは得られない多くの気づきを与えてくれました。ここでは、実習を通じて学んだことや得られた成果、そして今後の目標についてお話ししたいと思います。

まず最も強く感じたのは、「多文化理解の姿勢」の大切さです。協会にはさまざまな国籍の方が訪れ、生活や教育、仕事などに関する多岐にわたる相談が寄せられていました。私は相談対応の補助やイベントの運営を手伝いましたが、その中で、単に言葉を訳すだけではなく、相手の文化的背景や状況を理解しようとする姿勢がとても重要だと実感しました。私自身も外国人として日本で生活する中で戸惑いや不安を感じた経験があるため、相談者の気持ちに共感し、寄り添うことができたのは、大きな経験となりました。

次に、実務を通して「調整力」と「発信力」の必要性を強く感じました。イベント準備の際には多くの関係者と意見を交わし、異なる立場や考えをまとめることの難しさに直面しました。それでも、丁寧に話を聞きながら細かい調整を重ねることで、信頼関係が生まれ、スムーズな運営へとつながったと感じています。また、来場者への説明や案内では、自分の日本語表現の未熟さや、その場で対応する力の不足を痛感しました。これらは反省点であり、今後さらに磨いていきたい課題です。

さらに、協会での活動を通じて、「人と人をつなぐ役割」の大切さを学びました。相談窓口には、生活上の小さな疑問から深刻な悩みまで、さまざまな声が寄せられていました。職員の方々はその一つひとつに真摯に向き合い、必要に応じて行政や地域団体と連携して対応していました。その姿を間近で見る中で、国際交流は単なる文化紹介にとどまらず、人々の生活を支える大切な仕組みなのだと実感しました。私自身もその一端を担えたことに、大きな意義を感じています。

▲図書業務をする李さん

今後の目標としては、今回の経験を二つの面で活かしていきたいと考えています。第一に、自分の語学力や表現力をさらに高め、分かりやすく伝える力を身につけたいです。特に、状況をすばやく把握し、柔軟に対応できる力を養っていきたいと思います。第二に、異文化に対して常に開かれた姿勢を持ち、地域社会での交流の機会に積極的に参加することで、視野を広げ続けたいです。

今回の実習は、国際交流の「現場」で学ぶ貴重な機会となりました。自分自身の強みや課題に気づくことができ、今後の研究生活や進路を考える上でも大きな意味があったと思います。これからもこの経験を活かして、社会に貢献できる人材を目指して努力していきたいです。

「2025 年度多文化ソーシャルワーク研修会」を開催しました

9 月 27 日（土）に一般社団法人愛知県社会福祉士会との共催事業として、多文化ソーシャルワーク研修会を開催しました。

はじめに、基調講演として、神戸大学大学院国際協力研究科、斉藤善久准教授から、「日本で働く外国人の生活と権利」をテーマに、主にベトナム人技能実習生を取り巻く労働環境から見える課題や問題点についてご講演いただきました。

また、愛知県行政書士会、山田光男氏より「外国人支援に役立つ在留資格の基礎知識」として、在留制度に関する基本的な事柄や、就職、退職、妊娠など人生の節目で必要な対応事例を挙げてご講義いただき、実践に役立つ知識を学びました。

研修後半では「現場からの報告」として、実際に技能実習生を雇用しておられる株式会社八木代表取締役八木勇達氏および福祉相談機関の第一線で活躍されている名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター金山副主任相談支援員柳田智美氏より、外国人とともに働く職場や外国にルーツがある人々の生活課題をお話しいただきました。実際の現場の生の声を聴き、寄り添い型支援を実践する重要性を再認識しました。

今回の研修会を通じて、外国人労働者の置かれている現状を知るとともに、多文化共生社会におけるソーシャルワーカーの役割や受け入れ側である日本社会の課題について理解を深めることができました。また、制度や在留資格に関する基礎知識の習得に加え、実際の支援現場からの報告を通して、支援の現場で求められる視点や姿勢についても学ぶ貴重な機会となりました。

▲斉藤准教授による講義後の質疑応答の様子

▲講師と受講者との意見共有の様子

2025 年度「外国人県民による多文化共生日本語スピーチコンテスト」が開催されました！

愛知県では、外国人県民が自分の思いや考えを日本語で伝えようとする意識の高揚を図るとともに、多文化共生に対する県民の理解を促進するため、2015 年度から、「外国人県民による多文化共生日本語スピーチコンテスト」を開催しており、8 月 23 日（土）にコンテストの本選を実施しました。

応募資格は、愛知県に在学、在勤又は在住する小学生（相当年齢を含む）以上の母語が日本語以外の方です。今年度の応募は、小学生の部 44 名、中学生・高校生の部 37 名、一般の部 233 名、計 314 名と、過去最多の応募者数となりました。

第一次審査の結果、小学生の部 7 名、中学生・高校生の部 6 名、一般の部 7 名の計 20 名が本選に出場し、将来の夢や日本語学習の難しさ、日常生活で感じた文化の違い等をテーマに、自らの思いや考えについて日本語で感情を込めてスピーチしました。

審査の結果、小学生の部では、岩倉市立岩倉東小学校 6 年 ディン フェン ズオンさんが、中学生・高校生の部では、愛知県立衣台高等学校 2 年 ペレイラ イザベリ アユリエさんが、一般の部では、高浜市多文化共生コミュニティセンター つなぐ の Fraga（フラガ） Mary Ann Tripole（アントリポレ）さんが最優秀賞を受賞し、大村秀章愛知県知事より表彰を受けました。

出場者からは、「緊張したが、自分の気持ちを伝えることができて良かった。」「他の出場者のスピーチを聞いて、色々な考えを知ることができて勉強になった。」などの声が聞かれました。このスピーチコンテストでの経験を大切にして、今後出場者のみなさんが、それぞれの学校や職場において、大いに活躍されることを心から願っています。

▲知事と本選出場者の記念撮影

▲知事から表彰を受けた各部門の最優秀賞受賞者

Focus on! 国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPO などの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

新城市国際交流協会

新城市国際交流協会は、地域住民と世界をつなぐ活動を通じて、国際理解や多文化共生の促進を目指しています。設立以来、地域住民に国際交流の機会を提供するとともに、異文化理解や国際協力への関心を深めるさまざまな活動を展開してきました。

協会では、外国人住民との交流イベントや語学講座を定期的に開催しています。毎年恒例の「新城ミニリンピック」では、異なる文化背景を持つ市民がチームを組み、スポーツを通じて交流を深めることで友情を育んでいます。また、日本語教室も 2 教室が稼働しており、外国人住民が生活に必要な日本語を学ぶ場として親しまれています。こうした取り組みを通じて、日常生活でのコミュニケーションの円滑化や地域全体で多文化共生を実感できる環境づくりを進めています。

海外都市との交流プログラムも積極的に行っています。世界の「新しい城」の名前を持つ都市同士で行う「ニューキャッスル・アライアンス交流」は 30 年以上の歴史があり、今年 8 月にはラトビアのヤンピルス市で第 13 回世界ニューキャッスル・アライアンス会議が開催されました。新城市からも 7 名の若者が参加し、地域の文化や教育の特色を発信するとともに、互いの取り組みを学び合う貴重な機会となりました。

協会の大きな魅力の一つに地域ボランティアの活躍があります。日本の文化を伝えたり、得意な語学を活かしたりしながら、誰もが学びや交流の場として国際交流に関われます。今後も新城市国際交流協会は、地域と世界をつなぐ架け橋として、国際交流や多文化共生に関心を持つきっかけを提供し続けていきます。

▲新城ミニリンピック

▲日本語教室の様子

▲アライアンス会議・ユースの交流

Focus on! 世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

イタリア（ミラノ日本人学校　鈴木　菜月）

ミラノは、イタリアの中でも洗練された美意識と歴史が共存する都市です。ドゥオーモはその象徴であり、500 年以上かけて完成した大聖堂は、まるで石でできたレースのような繊細さを誇ります。屋上に登ることもでき、尖塔の間を歩きながら街並みを眺める体験は、他では味わえない特別なものです。

街を歩くと、ヴィットーリオ・エマヌエーレ 2 世のガレリアが現れます。「買い物する美術館」とも呼ばれ、有名ブランド店が並びます。中央の床にある雄牛のモザイクには、思わず足を止めてしまいます。「くぼみに右足のかかとを当て、3 回転する」と「幸せになれる」「またミラノに戻って来られる」と言われ、ロマンを感じさせます。

ファッションウィークの時期には、街に華やかさが加わり、ミラノの魅力が際立ちます。石畳の街では週末にメルカートが開かれ、店の人との会話を楽しみながら買い物ができます。

▲ミラノのドゥオーモ

そんな日常の中に、レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』があります。歴史の息遣いが街並みに溶け込んでいます。革新的ではありませんが、伝統を重んじ、それと共存する社会――それがミラノです。

そして、日本文化が再認識されるイベント「ラ・フェスタ」では、書道や折り紙、餅つきや和太鼓が披露されます。イタリア人には日本文化に親しむ機会となり、日本人にはその豊かさを再認識するきっかけとなっています。

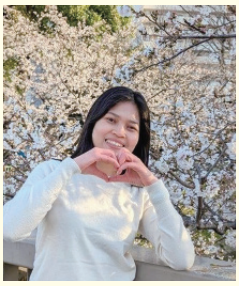
ちなみに、ミラノでは夕食の時間が遅く、午後 8 時以降が一般的です。仕事終わりに軽食を楽しむ「アペリティーボ」という文化が社交の場として根付いています。

▲ラフェスタ　書道体験の様子

ようこそ! 愛知の産業グローバル化を支える留学生

愛知県では、2013年度以降、アジア諸国からの大学院レベルの留学生を受け入れ、さらに県内企業への就職を促すことにより、全国一を誇るものづくり産業を支える人材の確保に努めています。このコーナーでは、愛知県の奨学金制度を利用し、県内の大学で学んでいる留学生の皆さんを紹介しています。

名古屋経済大学 大学院　カンボジア出身　サン　オーンさん



◇出身地について教えてください。

私はカンボジアの首都プノンペンの南に位置し、ベトナムとの国境に接するタケオ州の出身です。自然が豊かで、田んぼが広がる風景が特徴の地域で、現在住んでいる愛知県犬山市とどこか雰囲気が似ています。故郷に似た環境の中で暮らすことができ、とても住みやすく、犬山のことがすっかり気に入っています。

◇日本に来たきっかけは何ですか？

高校生のとき、日本の技術や、法をきちんと守る日本社会の在り方について学びました。そうした日本の魅力に触れるうちに、「もっと日本について知りたい」と思うようになりました。その思いからカンボジア王立法律経済大学に進学し、名古屋大学の日本法教育研究センターで日本語と日本の法律の勉強を始めました。学ぶほどに日本語の面白さに引き込まれ、やがて「実際に日本で学びたい」という思いが強くなりました。

◇なぜ愛知県を留学先に選んだのですか？

日本法教育研究センターの先生方の多くが名古屋出身で、愛知県の魅力についていろいろと教えてくださいました。また、センターの先輩の多くが名古屋に留学しており、知り合いが多くて安心感がありました。そんな中、先生からこの制度を紹介され、「チャンスがあれば、ぜひ愛知に行きたい」と思い、留学を決めました。

◇現在はどのような研究をしていますか？

法学部の大学院で研究しています。専門は民法の中でも家族法、とくに内縁関係と同性カップルに対する法的保護についてです。日本とカンボジアの法律を比較しながら、すべての人が差別なく、平等に生きられる社会を目指して、よりよい制度の在り方を探っています。安心して暮らせる社会の基盤があってこそ、産業の国際化や経済の発展にもつながると信じています。

◇将来の目標や夢を教えてください。

まずは日本語能力試験 N1（最上位レベル）に合格することが目標です。そのうえで、日本の企業に就職し、労務関係の仕事に携わりたいと考えています。数年間日本で働いて知識と経験を積んだ後は、カンボジアに戻り、日本での経験を活かして、日本とカンボジアの架け橋のような存在になれたらと思っています。

週末はよく料理をします。なかでも「ボウボウクルン」という、カンボジアの国民的なお粥をよく作ります。鶏肉やエビ、卵の黄身、もやしなどをたっぷり使った具だくさんのお粥で、「ボウボウ」はお粥、「クルン」はいろいろな具材という意味です。身近な食材で作れるので、日本でもよく作って食べています。

また、昨年の冬に初めて雪を見ました。岐阜県でスキーにも挑戦し、真っ白な雪景色に感動しました。スキーはとても楽しかったですが、何度も転んで、翌日は全身が筋肉痛になりました。それも含めて忘れられない思い出です。今年の冬もまたスキーに行く予定で、今からとても楽しみにしています。

協会案内図及び交通案内

地下鉄名城線「名古屋城」駅５番出口より徒歩５分
地下鉄鶴舞線・桜通線「丸の内」駅１番出口より徒歩 10 分

編集後記

最近よく見かけるアレルゲンピクトグラム、自分にはアレルギーがないので、あまり気にしていなかったのですが、ベジタリアンの方や宗教的な理由で食材を選ぶ方にとっても助けになるものだと知りました。より多くのメニューに表示されるようになれば、誰もが安心して食事を楽しめます。そんな未来が広がっていくといいなと思います。（I）

開館時間案内

開館時間　月曜日から土曜日　10：00 ～ 18：00
（金曜日は 10：00 ～ 20：30）

休 館 日　日曜日、祝日、年末年始（12／29 ～ 1／3）

編集・発行

令和７年 12 月 15 日発行
公益財団法人愛知県国際交流協会
〒 460-0001 名古屋市中区三の丸 2-6-1（愛知県三の丸庁舎内）
TEL：052-961-7903 ／ 052-961-8744
FAX：052-961-8045
URL：https://www2.aia.pref.aichi.jp/

＊本誌を作成するにあたり、企業・個人の方に取材を通じてご協力いただいておりますが、登場する企業・個人の営業活動の促進を目的とするものではございません。